

240408_1学期始業式(全日制) 式辞

舞鶴市の至る所の桜が満開となり、いよいよ令和6年度が始まりました。

この1年、明日入学してくる新入生も含め、579人となる西高生の成長、活躍を祈っています。

今日から、それぞれ学年が上がり、新しい教室、新しいクラスメイト、新たな後輩と様々な環境が変わるわけですが、早く順応して、良いスタートを切りましょう。安心安全な環境を作り、まわりの人を助け、人の痛みを理解し、切磋琢磨し、お互いに良い影響を与える存在であることを願っています。

2年生の皆さん、普通科ではコースが分かれ、理数探究科でも選択する科目によって、進もうとする道がよりはっきりしてきました。日々の授業を大切に、希望進路の実現に向けて頑張りましょう。

「授業を大切にする」とは、先生の話静静地に聞き、頑張っってノートを取るということだけでなく、最終的に自分の身につくような学び方をするということです。偽り、誤魔化しのない学びを積み重ねていきましょう。

3年生の皆さん、いよいよ最終学年、最高学年です。ひとつひとつの行事、部活動の大会やコンクールが高校生活最後のものになります。悔いを残さないように挑んでほしいと思います。困難にぶつかっても諦めず、前向きな姿勢を忘れずに挑戦を続けた皆さんが有終の美を迎えることを楽しみにしています。西舞鶴高校の教職員一同、皆さんのことをサポートしていきますので、ともに歩んで行きましょう。

さて、皆さんは、「この人はすごいな」と感じさせるような人に出会ったことはありますか。身のまわりとは限らず、直接は会えない人も含めてです。SNSの普及で、他人に才能を見せつけられることも増えてきていますので、おそらく、みんなそういった人に出会ったことがあると思います。そして、そのすごさに対して、「羨ましいと感じるとき」「羨ましいとは感じないとき」があると思います。「羨ましい」という気持ちは、行き過ぎると憎しみや嫉妬に繋がるので、どちらかといえば否定的な感情だと捉える人もいるかもしれませんが、ここではそういった考えは無視してください。他人の才能や成果・成績に「羨ましいと感じるとき」と「羨ましいとは感じないとき」の違いは何でしょうか。それは、その才能が、自分が進むべき道、やりたいと思っていること、やらねばならないことに関連しているかどうかだと思います。例えば、希望進路の実現に欠かせない教科を得意とする同級生に対して、「羨ましい」またはそれに似た感情を抱くことはあると思います。教育学者、心理学者の河合隼雄氏が書かれた「こころの処方箋」という本には、「羨ましかったら、何かやってみる」とあります。希望進路を実現するための学習、部活動で目標を達成するための練習において、「羨ましい」という気持ちだけで終わるのではなく、何かやってみましょう、行動してみましょう。皆さんには、行動を変え、習慣を変え、人格、運命、人生を変えてほしいと思います。そして、今抱いている夢、目標を達成してほしいと思います。

西舞鶴高校は、みなさんの夢を叶える場所です。その夢を叶えるために、ともに歩んで行きましょう。

以上で、年度当初の式辞とします。